THE SERVICE CLUB OF YMCA
THE INTERNATIONAL ASSOCIAION OF Y'S MEN'S CLUBS

２０２２年４月

CHATERED IN
NOVEMBER 21,1955

札幌クラブ

c/o YMCA
MINAMI 11 NISHI 11
CUO-KU SAPPORO
〒064-0811
011(561)5217

Week4Waste　グリーンプロジェクト

— 主 題 —

國際会長	「世界とともにワイズメン」	キム・サンチェ（韓国）
アジア会長	「100 年を越えて変革しよう」	大野　勉（神戸ポート）
東日本区理事	「私たちは次の世代のために何が出来るか？」	大久保　知宏　（宇都宮）
北海道部部長	「心を高めようパート２　ワイスダムの繋りを友情の輪に」	中村　義春（十勝）
札幌クラブ会:	「踏み出そう　次の一歩」	柴田　伸俊（札幌）

札幌クラブ役員

会　長	柴田　伸俊
副会長	伏木　康
書　記	伏木　康
会　計	秋葉　聡志
直前会長	宮﨑　善昭

今月の聖句：　「彼はもろもろの国のあいだにさばきを行い、多くの民のために仲裁に立たれる。こうして彼らはそのつるぎを打ちかえて、すきとし、そのやりを打ちかえて、かまとし、国は国にむかって、つるぎをあげず、彼らはもはや戦いのことを学ばない。」　イザヤ書第２章４節

『 国籍、関係ない。 俺たち、私たちキャンプ仲間』　　中田　靖泰

ロサンゼルスから車で 1 時間走ると Great Bear Lake という美しい湖があります。海抜 4,000 フィート。下界の灼熱がうそのようです。その少し奥に YMCA の Camp Whittle があります。「同じ日にスキーと海水浴が出来る」と自慢しています。

ダイニング・ホールの広さに吃驚。天井を見上げてもっと吃驚しました。キャンパーが記念に残したパネルが天井を埋めています。でも、ここまでは日本のキャンプ場でもよくある風景で、別に驚きはしません。驚いたのは最も目につくところに Japankese Camp というパネルが残されていることでした。下の写真は歳月で大分ぼけてしまいましたが読めるでしょうか？

Building for Tomorrow
JAPANESE CAMP 1941

と書いてあります。「明日のために築く」くらいの意味でしょう。

その日付を見て本当にびっくりしました。1941 年といえば「真珠湾」の年です。その夏、ここでキャンプを楽しんだ日系の少年たちは半年後には強制収容所に送られていったのです。「その少年たちは今どうしているだろうか。このキャンプをまだ覚えているだろうか？そんなことを考えて胸が熱くなりました。

同時に、このパネルを取りはづさずに守ってくれた YMCA のことを思いました。所長に聞いてみると「『Jap のパネルなど捨ててしまえ』という声は確かにありました。でも私たちは、『国籍なんて関係ない。これは俺たちの大切なキャンプ仲間のパネルだ』と言って守り抜きました」という答えでした。ＹＭＣＡの真骨頂を見た思いがして嬉しかったです。50 年前、BF 代表としてアメリカへ派遣された時の忘れられない一齣でした。

それから 10 数年、私はある民間の奉仕団体の青少年交換委員長をしていました。日本とアメリカ・オーストラリアの高校生を交換し、一般家庭でお互いの文化、言語を学ばせるという大きなプログラムです。　1 年が終わり、帰国の時が来ました。帰国する留学生たちに日本の想い出、学んだこと、等々を書いてもらいました。意外なことが起こりました。殆どの学生が、「一番楽しかったこと」に「チミケップ・キャンプ」を挙げたのです。その奉仕団体は夏休みの期間、チミケップに送っていたのです。その団体が 1 年間、何千万円をかけてたプログラムより YMCA のチミッケップ・キャンプが少年少女の心に残ったのです。大自然の中で「同じ釜の飯を食う」というのはそんなにも不思議な魔力を持っています。チミケップにはロシアの子供たちも来ていました。

「俺たち、私たちはキャンプ仲間」。ロシアにも、ウクライナにもＹＭＣＡがあります。皆「キャンプ仲間」になれないものでしょうか。

2022年3月例会出席報告

在籍会員　９名　　例会出席　９名　　メネット　０名　　メーキアップ　０名
ゲスト　２名（卓話者）　ビジター　０名　　出席者合計　１１名（内リモート　１名）

札幌ワイズメンズクラブ
２０２０年４月例会

日時：2022 年 4 月 19 日（火）18:30～20:30
会場：北海道 YMCA 101 教室＋リモート
会費：1,000 円　（会食なし、弁当持ち帰り）

プログラム

司会　副会長　伏木　康

① 開会点鐘　会長　柴田伸俊
② ワイズソング、ワイズの信条　全員
③ 今月の言葉　＆　なぜこの言葉を　宮﨑善昭
④ 開会あいさつ　会長　柴田伸俊
⑤ 誕生日　なし
⑥ 結婚記念日　なし
⑦ 卓話

「北海道ダブルタッチの現状」

JJRU（日本ジャンプロープ連合）
北海道支部サポーター
細割綾乃　様

⑧　諸報告
⑨　ＹＭＣＡ報告
⑩　今月の歌

「虹と雪のバラード」

（山崎　修選）

⑪　閉会挨拶・点鐘　会長　柴田　伸俊

なぜこの聖句を!　小野　健

ニューヨークの国連ビルの礎石に刻まれている句です。ウクライナの大義も正義もない戦争が 1 日も早く終結し、傷ついた人たちが少しでも救われることを願ってやみません。

札幌ワイズメンズクラブ３月例会

日時：　2022 年 3 月 15 日（火）18:30～20:00
出席：　柴田、秋葉、北川、中田、伏木、安田、山崎、宮﨑、　（リモート）小野
ゲスト：海藤、西村　　出席　計 11 名

以前より札幌クラブの中心イベント「時計台コンサート」でステージマネージャーとして大変お世話になっていた海藤さんを卓話者にお招きし、お仕事の舞台裏などのお話を聞かせていただいた。札響の成り立ちや楽器の特徴、会場舞台の構日本区からのウクライナ援助に関して急遽ニコニコ募金を募り、1 万円の支援金が集められた。
出席者：宮崎、秋葉、伏木、中田、柴田、安田、山崎、北川、小野(RM)、
ゲスト：海藤正吾さん、西村さん、　（柴田記）

札幌ワイズメンズクラブ３月事務会

日時：　2022 年 3 月 22 日（火）19:00～20:00
出席：　柴田（長）・秋葉・中田・宮﨑・山崎（web）北川、小野

1. 4 月ブリテン：
原稿締め切り：4 月 11 日（月）
発行予定：4 月 12 日（火）
2. 4 月例会・事務会について
・例会　日時：4 月 19 日（火）18:30～20:30
※対面＆リモート　場所：YMCA　101 号室
食事：会費／1,000 円　会食なし弁当持ち帰り
・5 月例会に関して
＜卓話者＞　卓話者：小野　健メン
仮題：「ブルキナファソの過去・現在・未来」
・事務会：日時：4 月 26 日（火）19:00～20:00
※対面又はリモート
・6 月例会　「1 年を振り返って」（出席会員）
3. 札幌クラブ次期役員について
次期会長　伏木 康　北海道部ユース事業主任
宮﨑善昭、その他の役員　会計：秋葉聡志
4. 次期役員研修会・第 2 回評議会について
日時：2022 年 4 月 29 日（金・祭）13：00～
場所：YMCA にて　出席者：柴田・秋葉・小野・中田　　未確認：伏木・安田・北川
5. 京都パレス 50 周年例会について
日時：2022 年 5 月 7 日（土）16:00～
場所：ホテルオークラ京都 登録費：12,000 円
出席者】伏木メン又は柴田会長
札幌クラブブリテンをデーターベースで配信。
6．宮﨑ユース事業主任より、全道ユースリーダー研修会の実施確認があったが、今年度は中止となった旨北川担当主事より報告があった。
7．ウクライナ支援　3 月例会ニコニコ 9,000 円に北川担当主事の 1,000 円を加えて、10,000 円を東日本区に送金する。
8．年末実施の安田文子コンサートの精算状とクラブへの寄付金について、柴田会長より確認。
9．1 月合同例会時に準備したラッフル用賞品について、今後何らかの形で現金化する。

3 月例会卓話　「オーケストラの裏側」　元札響ステージマネージャー　海藤 正吾

4 月の卓話は、札幌市北海道唯一のプロ・オーケストラ「公益財団法人札幌交響楽団（以下、札響）」で長年にわたりお勤めになられていた海藤正吾さんをお招きし、オーケストラに関しての様々なお話をお聞きしました。

海藤さんは、既に札響を退職されていますが、現在は札幌のアマチュアオーケストラを手伝っておられ、引退されても尚、札幌のオーケストラの発展にご尽力されているとのことでした。

札響は、1961 年（昭和 36 年）に札幌市民交響楽団として発足した歴史がありますが、その原点は、北 9 条西 7 丁目に在った音楽院の 2 階スタジオから始まったとの裏話をいただきました。当時は 20 人程の小さなアマチュアオーケストラとして始まったようです。

アマチュアオーケストラ時代の札響における海藤さんの役割は庶務的なところが主であったようですが、プロ化された後にステージマネージャー（以下、ステマネ）という役職が確立され、その役職に就かれました。ステマネは、表舞台にこそ出ませんが、ホールの確保、段取り設定、オーケストラ編成、配置プランニング等、多岐に渡り重要な役割を担う、裏方の責任者のような役職です。海藤さんは、「プレイヤーに何もさせないことが仕事」と要約して仰られました。

ステマネの役割の中でも、オーケストラの配置プランニングが実に難しいと言われます。多くの会場はオーケストラ専用には造られていないので音が反響しないように設定するのが一苦労でありステマネの腕の見せ所でもあるとのことでした。

札幌のコンサートホールについてもお話されました。全国の多目的ホール、音楽主目的ホールの中でも、札幌コンサートホール Kitara のように楽屋がホール前にある設計は珍しく、非常に良いとのことでした。その他、札幌文化芸術劇場 hitaru など札幌のコンサートホールは全国的に見ても総合的に素晴らしい設計であるとのことでした。

その他、様々な裏話を質疑応答形式でお聞きすることができました。札響の運営については、人材確保が非常に難しいとのことで、現在約 70 名前後の専属スタッフが登録されているようですが、それでも札響は 3 管編成が限度で、4 管編成を組む際はエキストラのサポートを受けていることです。

また、現在のオーケストラでは女性が優秀で、女性の割合が増えている話であったり、楽器の値段が数百万円以上というのが普通であることであったり、と実に様々で詳細なお話をお聞きすることができました。最後に、日本人の観客はとても静かであるが、欧米の観客は、演奏の合間に「bravo！」などの掛け声を出すとのことで、札幌のワイズメンも是非コンサートとでは声を出してほしいとの激励をいただきました。札幌ワイズメンも、安田メンの次なるコンサートの際には、皆で「bravo！」を出せるようにと約束しました。　（文責：北川）

写真上：　海藤さんの主戦場「札幌コンサートホール：キタラ」　キタラは「ギリシャの古楽器「キタラ」と「来たら（いかがですか）」をかけたネーミングです。

札幌クラブ 3 月例会

前列左から、
海藤、安田、柴田、中田

後列左から、
ｘｘ、宮崎、伏木、
山崎、秋葉、北川

右のスクリーン上は
リモートで参加の
小野会員

YMCAニュース　担当主事　北川　佳治

① 新年度開始

4 月 1 日より札幌 YMCA 各事業の新年度が順次開始され、幼稚舎入園式・専門学校入学式、ウエルネス・教育事業の合同入会式など、新たな会員を迎えるセレモニーが執り行われました。

2022 年度も会員各々がウエルビーングを目指し、一人ひとりがポジティブネットを拡げる担い手になっていけることを願っています。

② 2022 年度北海道 YMCA 創立記念日集会開催

4 月 3 日（日）に創立記念日集会がオンラインと対面方式で開催されました。

今年は北海道 YMCA 創立 125 周年の節目ということで、大ヒットソング「幸せなら手をたたこう」の生みの親である木村利人(りひと)さん（早稲田大学名誉教授・東京 YMCA アドバイザー）にテーマ「幸せなら態度で示す人生を！ー幸せなら手をたたこうに込めた友情と平和への願いー」と題して記念講演を行って頂きました。

ワイズの信条

1. 自分を愛するように、隣人を愛そう。
2. 青少年のためにYMCAに尽くそう。
3. 世界的視野をもって、国際親善をはかろう。
4. 義務を果たしてこそ、
   権利が生ずることを悟ろう。
5. 会合には出席第一、
   社会には奉仕第一を旨としよう。

2月例会会員卓話（3 月号の続きです）

近況報告　宮崎　善昭

学校法人事務所の職員にコロナ陽性者が出て、事務所が 10 日間閉鎖になりました。私と言えば、有料の検査センターで検査の結果、陰性でした。有料の検査は「クイック」というパターンで①抗原定性検査　②PRC 検査があり,①は当日、②は翌日検査結果がでます。

費用は約 4,000 円でした。なぜ 10 日も閉鎖になったかと言えば、最初に感染したであろう職員の発症日が、濃厚接触者で発症した職員の発症日よりも後になるという珍現象があったからです。もうこうなると、保険所の発症日の特定なんかまったくあてにならないということになりますよね。　3 回目のブースター接種も終わり、私も家内も特に具合が悪くなるでもなくだらだらと 10 日間惰眠を貪りながら過ごしました。でも良い休養になり幸いでした。

暑寒別岳スキー場の大会に娘が初参加

山崎　修

増毛町にある暑寒別岳スキー場に、長女(小二)のアルペンスキーの大会に初参戦のため、初めて行ってきました。娘の初めてのスキー大会ではあったのですが、何位を目指すなどの目標がないせいもあり、本番の滑りもいつも通りに滑っていて一安心でした。

スキー場から見える暑寒別岳(標高 1,492m)は絶景で、昔懐かしいスキーロッジといい、一カ月券が 1 万円なので、毎日滑ると一日 300 円換算でスキー場のラストフロンティアという感じでした。

ニセコのスキー場はニセコアンヌプリ(標高 1,308m)ですが、暑寒別岳の自然環境のポテンシャルはニセコに勝るとも劣らないですね。

かつて、スノーモビル愛好者にとって、ニセコと暑寒別岳は遊び場の聖地と聞いてます。しかし今は、どちらも自由にスノーモビルがほぼ禁止区域となり行けなくなっております。アメリカでは冬の道路が閉鎖されたところにガイド付き・宿泊付のスノーモビルツアーも 1990 年台にはすでに大人気でした。北海道の魅力をより多くの人に分かち合うには、遊びのフィールドの声に耳を傾け、自然体験のルール作りに北海道の行政としても積極的に関わることが、眠れる北海道の自然資産の有効活用につながるのではと思いながら、娘の大会のサポートをしておりました。